

## 「聴覚障害児の教育課程」

教育学部 立入 哉

### 1. 授業の目的と内容

本講義は、聴覚障害児教育の大枠を知り、もって聾学校教員としての資質を備えられることを目的とした授業である。具体的には聴覚障害児教育の歴史、教育方法の変遷、聾学校教育の特徴、幼児児童生徒の各発達期順に教育課程論を展開している。

平成30年度、受講学生は29名であった。

### 2. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

#### 1) 愛媛県の聾教育の開祖者について

今年度、愛媛県の聾教育の開祖者（森盲天外）について、時間を設けて紹介する時間を設けた。今年度、道後温泉足湯と、愛媛県身体障害者センター前にある森盲天外の句碑をGoogle Mapを用いて、授業時間中に場所を探査することを試みた。また、今年度、森盲天外の墓石を探させたが、発見できなかった。森についての手元資料が少なく、教材化するためのデータが整っていない。学生が調査しうる資料が存在するならばより良い教材化ができると思われた。

#### 2) 地域のデータを活用する試み

従来は、「全国では・・・」という全国データの紹介を中心にしていたが、本年度は、意識して「愛媛県では」または「四国では」というデータを資料に加えるよう努力した。今年度は、障害者雇用率に関して、公的機関の水増しが発覚した。このことについて、愛媛県の労働局が発表している資料や新聞記事を用い、身近な話題として取り上げることができた。

### 3. DPの対応／合理的配慮

#### 1) DPとの対応で授業の評価について

聴覚障害児教育に関する基礎的な段階（免許法必修科目の最初の科目）であるため、知識・理解を求める内容が多い。このため、教育と教職に関する知識・理解は 1.36、教育的活動に取り組むための技能が

1.64（前年1.29）、現代的諸問題についての知見を基にした思考・判断 1.73、教師としての興味・関心・意欲は 1.45と概ね DPの趣旨に沿った内容の授業展開ができていた。

#### ■参考

（「1 とてもそう思う、2 ある程度そう思う、3 あまりそう思わない、4 授業の目標・内容がこのDPとは無関係である」の4選択肢。従って、数値が小さい方が高い評価である。）

#### 2) 授業時間外学習の促進

DP調査で同時に行った時間外学習に関する調査の結果は下記のとおりである。

表1：授業時間外活動について

授業時間外 予習復習時間	2.3時間/w
時間外に費やした学習時間	0.5時間/w
自分で自発的に読んだ本や論文の数	1.1本/s
授業時間外の自発的活動	0.2件/s

※「/w」は週あたり、「/s」は後期全体

表1の通り、**授業時間以外での学習時間は平均で週あたり 2.8時間＝**であり、授業90分対し、168分の授業時間外学習が行われていた。DP調査には 11名(38%)しか協力していないため、受講学生のうち、授業に積極的に参加した学生のサンプルであると自戒するとしても、十分な授業時間外学習を促すことができていた。

DP対応調査における自由記述は6.の自由記述に合わせて報告する。

#### 4. Moodleを用いた時間外学習の促進

3年前から、Moodleを利用し、関連する映像番組を視聴できるようにした（図1）。一昨年度は、視聴端末によって、視聴できない学生がいたが、昨年度からMoodle 3になり、視聴ができない学生はいなかった。

## 5. 「学習の手引き」を用いた時間外学習の促進

### 1) 「学習の手引き」について

本講義では、Moodleを使用して、毎回の講義について、関連する資料や動画を紹介している。しかし、昨年度の反省点として、紹介しても、それらを活用しない（視聴しない）学生が多かった。

このため、①それぞれの資料や動画の「見るポイント」と、各講義の重要事項をまとめたA4、2枚の「学習の手引き」を作成した。これにより、学生にとって、毎回の講義について、復習すべき内容、Moodleの資料をどのように活用したら良いかを明確にした。②今年度は動画参考資料を絞り込み、長くても20分程度の映像に厳選し、長編の映像は20分程度に編集を行った上で、MoodleにUPするようにした。

### 2) 「小テスト」とのリンク

この「学習の手引き」に紹介したポイントについて、毎回授業前に行う小テストに出題をした。授業→「学習の手引き」による復習→小テストという循環（図2）により、学習の効果をより高めることができた。

### 3) 授業映像の撮影とMoodle上での公開

昨年度、冬期、インフルエンザによる出席停止が多い時期に授業を動画撮影し、Moodleで視聴できるようにした（字幕なし）。しかし、これが授業欠席者だけではなく、出席者に好評であったため、今年度は、すべての授業をビデオ撮影し（1回だけ撮影ボタンの押し忘れにより記録できなかった）、映像を授業直後にMoodleにあげるようにした。

### 4) 資料等の配布の工夫

昨年度から「授業スライド資料」「学習の手引き」「小テスト」「追加資料」には、綴じられるように左側に2穴を開けて配布していた。しかし、それでも、自分で「綴じる」ということをしない学生が散見されたため、授業開始時に背文字を入れたファイルを配布した。加えて、今年度から、授業スライド資料はカラー印刷にした。これらは、期末には12mmほどの厚さになったが、期末試験時にはファイルを繰り返しながら見る学生が多く、ややお節介とは言い、授業を受けることで学習成果が見える効果があったと確信している。



図1：Moodle上の教材群

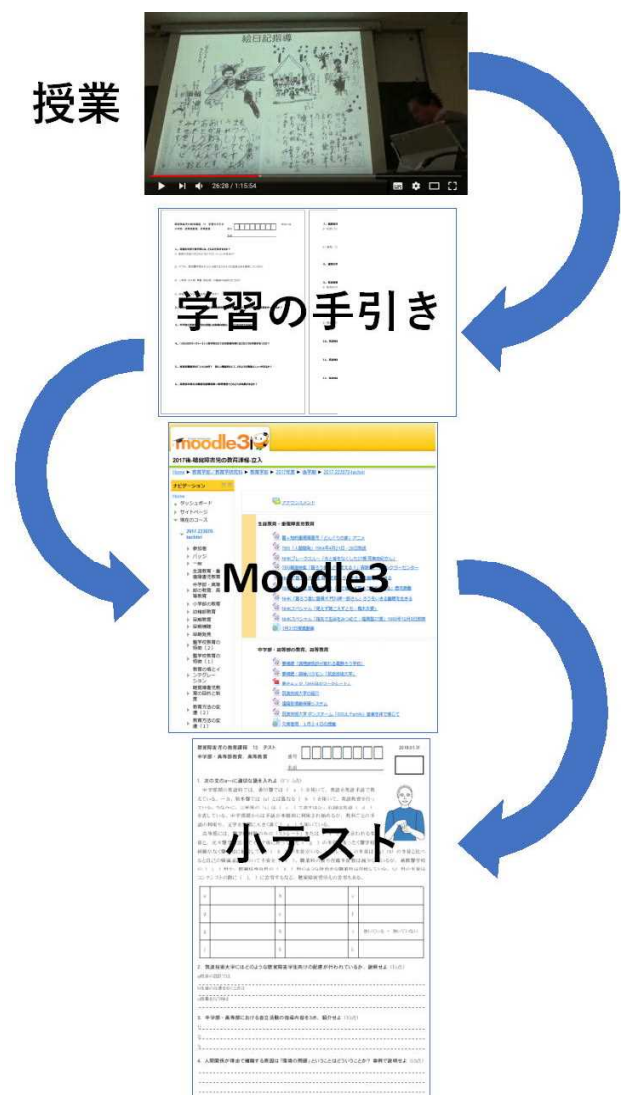


図2：授業から小テストまでの流れ

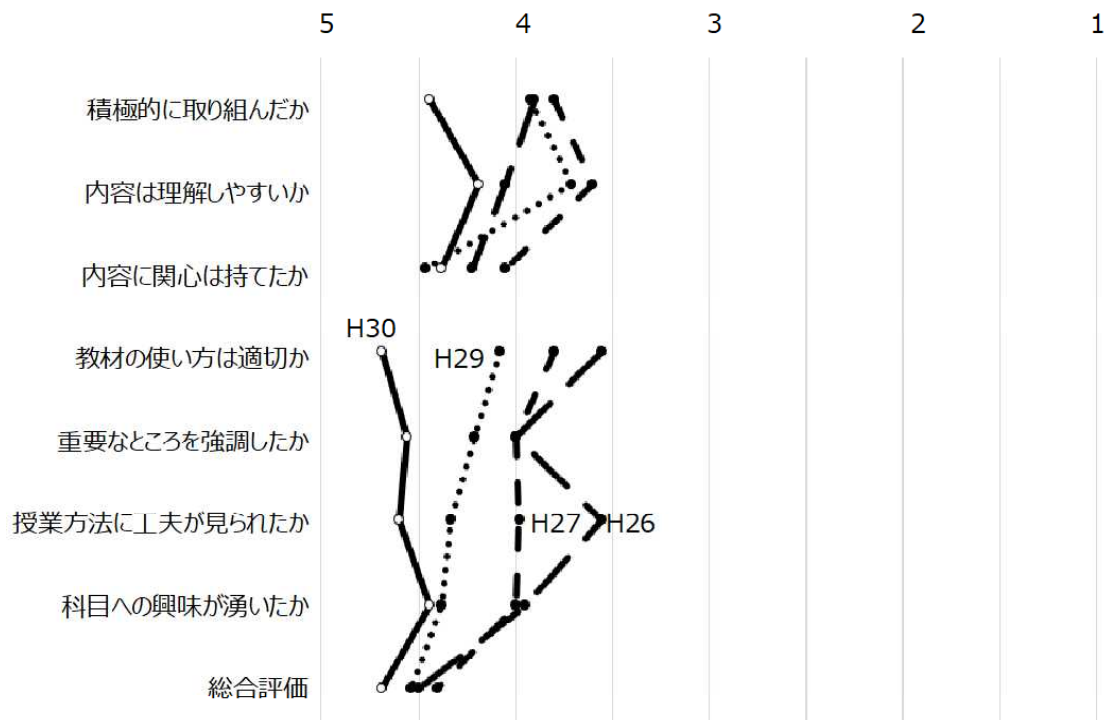


図3：授業評価（5がもっとも高い評価）

## 6. 独自アンケートによる効果の検討

### 1) 5選択肢による調査

ここ数年、同じ講義に対して、同じフォーマットを用いて独自の授業アンケートを行っている。この結果を図に示した（図3）。今年度、「学習の手引き」を作成したことで、Moodle上の教材を学生が活用でき、相乗効果があったと考える。結果、教材の使い方、重要な箇所の強調、授業方法の工夫、科目への興味といった評価ポイントで大きく評価が高まった。

表2：授業評価（昨年度比）

	H30年度	H29年度
積極的に取り組んだか	4.44	3.92
内容は理解しやすいか	4.19	3.71
内容に関心は持てたか	4.38	4.46
教材の使い方は適切か	4.69	4.08
重要なところを強調したか	4.56	4.21
授業方法に工夫が見られたか	4.60	4.33
科目への興味が湧いたか	4.44	4.38
総合評価	4.69	4.54

### 2) 自由記述欄

#### ■ 教員になる上で身につけてスキル（DP調査における自由記述）

- ・聴覚障害者に関する諸問題への考えを持つこと
- ・聴覚障害児に対する適切な教育方法
- ・聴覚障害児特有の教育課程を知ったり、聾学校の取り組みを知ることができる
- ・聴覚障害児に対する指導や支援はもちろん、家族支援や兄弟支援、様々な関わりについて身につけた。
- ・聴覚障害を持つ子どもたちの特性の理解や、どのような支援や配慮が必要であるかという知識
- ・聴覚障害児の教育の仕方、考え方
- ・聴覚障害に関する専門的な知識、考え方
- ・専門的な教員として子どもの聞こえに関する関わり方
- ・個人により異なる聴覚障害児の多様なコミュニケーション手段を見極め、できるだけ子どものニーズに応えようと指導するスキル
- ・聴覚障害児や保護者の心情理解

#### ■ 「資料」や「Moodle」の活用について

- ・動画の量がちょうど良かった
- ・毎回の授業内容と資料がとてもわかりやすかった

- ・先生が経験された話と資料が合わさることで聴覚障害児や学校の実業について知ることができた
- ・カラー印刷になって資料が見やすくなった
- ・実際の聾学校の写真がカラーで分かりやすかった
- ・カラーの印刷でも見えにくいスライドがあった
- ・授業を休んでも授業映像があるので良かった
- ・授業を受けていても難しかったところの説明を授業映像でもう一度確認できて勉強になった
- ・Moodleの動画がおもしろかった
- ・1つの動画が15～20分ぐらいだと、ちょうど見やすいと思いました
- ・動画の量は今ぐらいで十分と思った

### ■「学習の手引き」について

- ・模範解答でなくても良いので難しいところはざっくりと「こんな感じ」という解答例が欲しい
- ・自分で勉強する教材ができて良かった
- ・「島で暮らす盲ろうの少女」のビデオがMoodleにUPされておらず、「学習の手引き」の問いに答えられなかった
- ・解答がないことで自分でしっかり調べられたので、私は解答例がなくても良いと感じたし授業理解も深まった
- ・試験後で良いので解答例が欲しい（Moodleに載せて欲しい）分からず空白のママのところを埋めることで復習をしたい
- ・調べても分からない箇所があり、解答例の必要はなくても、自分の答で合っているのかどうか自信がないので、答え合わせができれば良い
- ・解答例を試験の前の週で良いので、欲しいと思った

### ■「ファイル」について

- ・とてもありがたかった
- ・とても整理しやすく、使いやすかった
- ・ファイルをリング式にさせていただいた方が見返しやすいです（個人で用意するのでも全然いいと思う）

## 7. 総合的考察

評価は年々向上している。特に今年度は、「教材の使い方」や「重要なところの強調」で大きく評価点が向上した。カラー印刷にしたこと、Moodleでの動画配信で動画量を抑え、厳選して短いものを選んだことなどが好評価の要因になったのではないかと考えられる。

授業を受ける側の評価としては「積極的に取り組んだか」で大きく評価点が向上した。昨年「学習の手引き」を導入したことで、焦点を絞って学習できるようになったことが要因と考えた。一方、「内容に関心が持てたか」の評価点は昨年より下がっている。より身近な話題や、将来の教員としての職業像に、さらに迫る内容を用意することが授業者に求められていると感じた。

本講義「聴覚障害児の教育課程」について、90分×15講義でまとめ上げることは極めて難しい。今年度、「学習の手引き」の解答例を欲しがることが多かったが、一方で、解答例を配布することで、自ら調べる機会と時間を奪ってしまう可能性もある。解答例を配布するならば、どのようなタイミングで配布するかを熟慮する必要がある。本来は、授業を欠席した学生に対する配慮であった授業の動画を配信したことが好評だった。Moodleの視聴記録を見ると、一部の学生が複数回視聴している様子もあった。これらも、学生の学ぶ意欲の向上にもつながったと思う。